【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	長　野　県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	箕輪北小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	２	２	２	２	２	２	２	１４	２４
児童数	５１	６４	７０	６４	７３	６５	６	３９３	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

学力向上に向けて基礎基本の定着を図り，
「わかった」「できた」喜びを実感できる学習のありかた
～算数科少人数学習指導を中心として～

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科および選択理由

○１～６年生および特別支援学級での算数
・多様な考え方ができ，自分らしさを引き出すことができると考えたため。
・児童の理解の状況に差が出やすく，その差を縮めていく必要があると考えたため。
・国語科と算数科において，少人数指導の新たな取り組みが始まり一層の効果を上げたいため。

○全学年の国語・算数のドリル学習
・すべての教科の基礎となるため。

○全学年の課題を持って自主学習のできる長期休業
・２学期制における学びの連続性を維持するため。

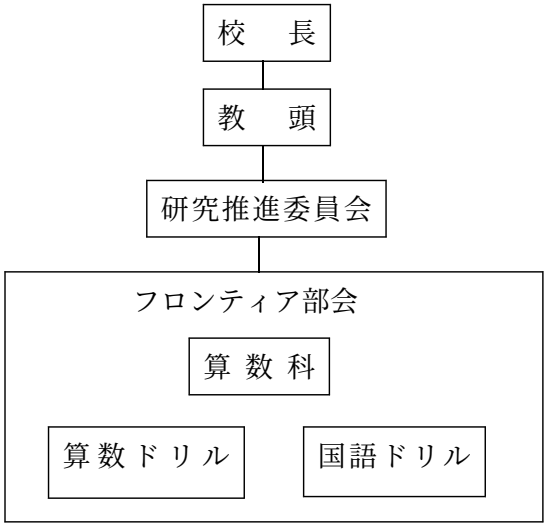
(2)　年次ごとの計画

平成15年度	○テーマ　学力向上に向けて基礎基本の定着を図り， 「わかった」「できた」喜びを実感できる学習のありかた ～算数科少人数学習指導を中心として～ ○研究の仮説 ・仮説１　課題を明確にし，子どもの意識を予想する 子どもたちに身近な問題を作成し，課題を明確にしたうえで個人追究に入るとともに，子どもの意識の流れを予想しそれに対応した指導計画を作成することで，主体的に学ぶことができるだろう。 ・仮説２　算数的活動を積極的に取り入れる 作業的・体験的な活動を積極的に取り入れることで，自分らしい考えが持て，学ぶ楽しさを味わうことができるだろう。 ・仮説３　評価を適切に行う 指導と評価の一体化を図り指導の方向を考える事で，個に応じた対応を行うことができ，基礎基本の定着が図られるだろう。また，自己評価で自分の学びのあとを振り返ることにより，次への課題が明らかとなり，追究の意欲につながるだろう。 ○研究の内容・方法

	・仮説に基づく授業実践と授業改善 ・子どもの興味関心を喚起する教材の開発 ・評価規準の見直しと，評価を生かした指導の工夫 ・見返しカード（子どもの自己評価カード）の活用方法 ・ドリル学習のあり方の研究 ・２学期制のよさを生かした教育課程の構成

平成16年度	○　テーマ　　学力向上に向けて基礎基本の定着を図り， 「わかった」「できた」喜びを実感できる学習のありかた ～算数科少人数学習指導を中心として～ ○研究の仮説 ・仮説１　課題を明確にし，子どもの意識を予想する ・仮説２　算数的活動を積極的に取り入れる ・仮説３　評価を適切に行う ○　研究の内容・方法 ・仮説に基づく授業実践と授業改善 ・子どもの興味関心を喚起する教材の開発 ・評価を生かした指導の工夫 ・見返しカード（子どもの自己評価カード）の活用方法 ・ドリル学習のあり方の研究 ・２学期制のよさを生かした教育課程の構成 ・算数科以外の教科で自分らしさを出して追究させるための指導方の研究

(3)　研究推進体制



Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

○少人数指導では，習熟度別・コース別の取り組みが定着した。 ○算数の授業では，日常的な場面から教材化を図ってきたため，子どもが興味関心を示し取り組むようになってきた。 ○子どもの意識を予想し，教材を工夫することができた。 ○算数的活動を積極的に取り入れることで，自分なりの考えを持てるようになってきた。それだけに，授業へのかかわり方が積極的になってきた。 ○指導と評価の一体化を目指し，評価規準の見直しと活用が図られた。今まで以上に子どもの姿をはっきりととらえることができるようになった。子ども自らも見返しカードの活用で１時間の授業を振り返り，何がわかり，どこが理解できていないのかをつかみ，次時以降に生かすことができた。 ○ドリル学習では，チャレンジ大会の実施で意欲を喚起することができ，漢字や計算の定着が図られた。

２．今後の課題

○練り上げる算数科の授業を構築していくため，今以上に，わからないこと・困っていることが自然と言えるような雰囲気づくりをしていく必要がある。教師は子どもの意見をきちんと聞き，それをもう一回子どもに返し，考え方の深まりを引き出していくような姿勢を持っていく必要がある。
○算数科以外の教科でも「自分らしさ」を出すためには，どのような力をつけなければならないのかを追究していきたい。
○ドリル学習は「チャレンジ大会」という新たな取り組みを始めたが，さらに効率的なドリル学習のあり方について研究していきたい。
○２学期制のよさを生かした教育課程を推進していきたい。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

○少人数指導における子どもと保護者の意識調査
○毎時間の座席表による評価の累積と分析
○チャレンジ大会による漢字・計算の定着度の分析
○県学力テストの実施

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○研究発表会
　・平成１６年１１月頃（予定）
○参観週間での地域・保護者への授業公開
　・年２回（５月・１０月））

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　■１５年度からの新規校　□１４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　□７～１２学級　■１３～１８学級　□１９～２４学級　□２５学級以上

【指導体制】　■ 少人数指導　□ Ｔ．Ｔによる指導　□ 一部教科担任制　□ その他

【研究教科】　■ 国語　□ 社会　■算数　□ 理科　□ 生活　□ 音楽　□図画工作　□ 家庭　□ 体育　□ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■ 有　□無